



公共施設の未来を考える 「市民討議会」

開催報告書



平成30年10月

湯沢市

目次

主催者あいさつ	1
概要	2～7
スケジュール	8
市民討議会1日目	
○公共施設の現状・課題・あり方について	9、10
○施設見学	10、11
○質疑応答等	12、13
市民討議会2日目	
○ワークショップの開催にあたって	14
討議1「集会施設はどうあったらいいか」	
○集会施設の今後のあり方を考える上でのポイント	15、16
○討議の様子	17
○発表の様子	18
○討議の結果	19～22
○討議の結果<意見のまとめ>	23、24
討議2「学校施設はどうあったらいいか」	
○学校施設の今後のあり方を考える上でのポイント	25～27
○討議の様子	28
○発表の様子	29
○討議の結果	30～33
○討議の結果<意見のまとめ>	34、35
講評	36
参加者アンケート集計結果	37～42

本年9月に開催しました「公共施設の未来を考える市民討議会」におきまして、多くの市民の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

本市では行政需要の拡大や市民の皆様の御要望にお応えするため、様々な公共施設を整備して参りました。特に、昭和40年代後半から昭和50年代にかけて集中的に整備されており、今後、一斉に建替や改修が必要な時期を迎えます。また、人口減少や少子高齢化の進展により、施設の利用需要が変化しておりますことから、平成29年2月に「湯沢市公共施設等総合管理計画」を策定し、これらの課題に対応するための全体方針をまとめたところです。

現在は、個々の施設の方向性をどのようにしていくか、具体的に示す「個別施設ごとの再編計画」の策定を進めています。施設の再編に当たっては、単に施設の数減らすのではなく、まちづくりの観点から地域全体を見渡して、公共施設のあるべき姿を市民の皆様と協働で検討していくことが重要であると考えており、新たな市民参加手法としてこの市民討議会を開催することとしました。

参加者の皆様には、1日目は討議の事前学習や施設見学、2日目は集会施設と学校施設をテーマとした討議を行っていただきました。今回のテーマは、いずれも市民の皆様に馴染みの深い公共施設であり、討議の場では普段からお気づきになっていたことや、お感じになったことなどを積極的に御発言いただきました。

このたび、市民討議会の内容を今後の計画策定の参考とさせていただくため、開催報告書として取りまとめました。

市民討議会は、市にとって初めての開催でありましたが、参加者の皆様の御協力により円滑に進めることができました。今後も、市民討議会をまちづくりの市民参加手法の一つとして取り入れ、市民の皆様の御意見を伺いながら計画策定に取り組んで参ります。

平成30年10月

湯沢市長 鈴木俊夫

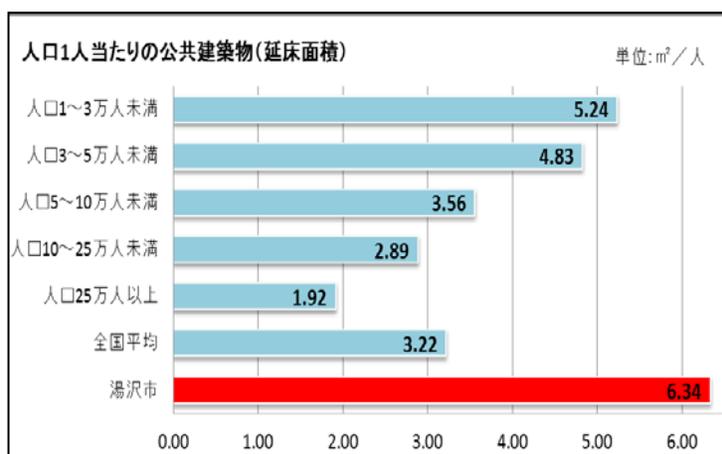
【背景と目的】

今後多くの公共施設が老朽化により一斉に更新時期を迎えます。また、人口減少や年齢構成の変化による利用者の減少やニーズの変化など、施設の在るべき姿を見つめ直す必要性が高まっています。

本市の公共施設は、全国平均を大きく上回る施設面積を有しており、類似している施設や利用率の低い施設が数多くあります。

人口減少や少子高齢化等により、既存施設をこのまま全て保有し続けることが難しい中、従来のように個々の施設を「点」で見るのではなく、地域全体を「面的」に見渡し、他施設との複合化など新たな手法の導入を検討する必要があります。

<全国平均から見た湯沢市の人口1人当たりの施設面積>



市では、公共サービスの維持向上を図りながら、施設総量を適正水準に見直すための基本方針として、平成29年2月に湯沢市公共施設等総合管理計画を策定しています。これに基づき、各施設の今後の方向性を示す公共施設再編計画を平成32年3月までに策定する予定です。

個別施設ごとの再編計画策定に向けた検討に当たっては、様々な立場や世代、地域の方々から御意見を伺うことが重要と考え、より広く市民の皆様から御意見を伺うための新たな市民参加手法として『市民討議会』を開催することとしました。

＜湯沢市の現状＞

集会施設やスポーツ施設を一度も利用したことのない市民	4 割 (H28 公共施設に関するアンケート調査)
集会施設の維持管理経費のうち、利用者負担	1 割未満 (H29 施設評価結果)



経費の 9 割は、利用していない方を含めた皆さんの税金で運営されています。

このことから、普段から公共施設を利用している方々はもちろんのこと、これまでほとんど利用したことがない方々の御意見もバランスよく伺う必要があると考えています。

『市民討議会』は、個人の社会参画意識の高いドイツで行われている住民自治の手法を日本風にアレンジしたもので、市民の積極的な自治参加を促す新たな手法です。

無作為に抽出した市民 1,200 人に案内し、参加の御意向を示していただいた方から 30 人を選出して開催します。無作為抽出、有償性といった特徴から、これまで行政に声を届ける機会の少なかったサイレントマジョリティと言われる一般市民の参加を促す方法として効果が期待されます。

【市民討議会の特徴】

① 参加者の無作為抽出

住民基本台帳に基づきランダムに抽出した平成 30 年 6 月 1 日現在で在住する 15 歳以上（高校生以上）1,200 人の方に御案内し、参加に同意していただいた方から 30 人を選出します。

② 参加者の有償性

報酬（日額 3,000 円）を支給します。

③ 専門家等からの情報提供

スムーズかつ良質な話し合いを行っていただくため、専門家や市担当者による情報提供を行います。

④ 参加者による討議

グループで討議（話し合い）を行い、意見をまとめていただきます。

⑤ 報告書の公表

討議会の結果は報告書として一般公開し、計画づくりの参考とさせていただきます。

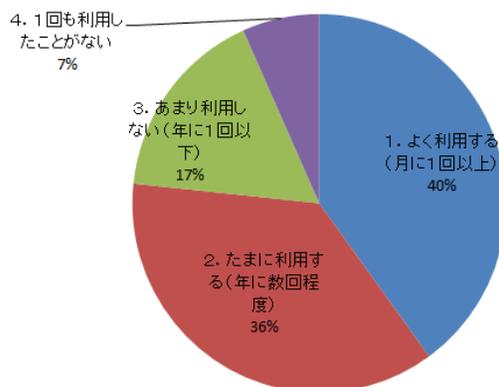
【参加者】

無作為に抽出した市民 1,200 人に案内し、選出者 30 人のところ、33 人（2.75%）の方から参加の御意向を示していただきました。

参加同意をしていただいた方には、同意書提出の際に簡単なアンケートを実施しています。選出者 30 人のアンケート結果は次のとおりです。

問1 過去1年間の湯沢市の公共施設を利用した頻度について

利用頻度	人数
1. よく利用する（月に1回以上）	12人
2. たまに利用する（年に数回程度）	11人
3. あまり利用しない（年に1回以下）	5人
4. 1回も利用したことがない	2人



問2 利用回数が多い施設について（複数回答可）

施設	人数
市役所、各総合支所	9人
湯沢図書館、雄勝図書館、稲川カルチャーセンター	7人
湯沢文化会館、雄勝文化会館	7人
道の駅おがち	6人
小町の郷公園	4人
各生涯学習センター	3人
各地区センター	2人
稲川交流スポーツエリア、稲川勤労青少年ホーム、子育て支援総合センター、稲川体育館、福祉センター、ほっと館、駒形老人憩の家	各1人
湯沢雄勝広域交流センター ※	3人
JAこまち多目的集会センター ※	1人

※ 市所有施設以外

問3 利用が少ない理由について（複数回答可）

利用頻度	人数
利用する必要がない	3人
類似の民間施設や他市町村の施設を利用している	2人
開館時間が合わない	2人
その他	2人

年代別利用頻度

利用頻度	年代													計
	15 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳 以上	
1. よく利用する（月に1回以上）	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	5	2	1	12
2. たまに利用する（年に数回程度）	1	0	0	1	1	0	0	0	1	4	1	1	1	11
3. あまり利用しない（年に1回以下）	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	5
4. 1回も利用したことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
計	2	1	2	1	1	0	0	1	4	6	7	3	2	30



【参加者内訳】

参加者の決定後、御都合が悪くなった方がいたため、最終的に1日目は26人、2日目は25人の方に御参加いただきました。

(単位：人)

■ 1日目

地区	男性	女性	計
湯沢	4	5	9
山田	1		1
三関	1	1	2
岩崎	1		1
幡野		1	1
高松		1	1
稲庭		1	1
三梨		1	1
川連	1		1
駒形	1		1
院内	1		1
秋ノ宮	2		2
小野	1		1
皆瀬	3		3
計	16	10	26

年代	男性	女性	計
15～19歳	1	1	2
20～24歳		1	1
25～29歳		2	2
30～34歳	1		1
50～54歳	1		1
55～59歳	2	1	3
60～64歳	5	1	6
65～69歳	3	3	6
70～74歳	2	1	3
75歳以上	1		1
計	16	10	26

■ 2日目

地区	男性	女性	計
湯沢	4	5	9
山田	1		1
三関	1	1	2
岩崎	1		1
幡野		1	1
高松		1	1
稲庭		1	1
三梨		1	1
川連	1		1
駒形	1		1
院内	1		1
秋ノ宮	2		2
皆瀬	3		3
計	15	10	25

年代	男性	女性	計
15～19歳	1	1	2
20～24歳		1	1
25～29歳		1	1
30～34歳	1		1
50～54歳	1		1
55～59歳	2	1	3
60～64歳	5	1	6
65～69歳	2	4	6
70～74歳	2	1	3
75歳以上	1		1
計	15	10	25

【案内状】

**公共施設の未来を考える
『市民討議会』への参加のお願い**

編 集 第 133 号
平成 30 年 7 月 5 日

湯沢市にお住まいの皆様

湯沢市長 鈴木俊夫

盛夏の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。
湯沢市では、過去に整備してきた公共施設等が老朽化するなかで、人口減少や少子高齢化に伴う市民ニーズの変化などを捉えたとき、現在の施設を今後どのようにしていくかが大きな課題となっています。
平成 29 年 2 月には市全体を捉えた経営的な視点から公共施設等の総合的な管理を推進するため、「湯沢市公共施設等総合管理計画」を策定しました。現在は、個々の施設の方向性についてどのようにしていくか、具体的に示す「個別施設ごとの再編計画」の策定を進めています。
個別施設ごとの再編計画策定に向けた検討に当たっては、様々な立場や世代、地域の方々から御意見を伺うことが重要と考え、より広く市民の皆様から御意見を伺うための新たな市民参加手法として「市民討議会」を開催することとしました。
市民討議会は、無作為で抽出した市民の皆様から御案内し、参加の御意向を示していただいた方々から 30 人を選出し、開催します。つきましては、**貴方様が無作為抽出により選出されたので、直営を御理解のうえ、御参加くださいますようお願いいたします。**
同封したパンフレットは、市の公共施設が抱える主な課題や今後の方針を分かりやすくまとめたものです。ぜひ御覧いただき、討議会への参加を御検討ください。
御参加いただける場合は、別紙「参加同意書」に必要事項を記入のうえ、**7月25日(水)**まで同封の返信用封筒(切手不要)にて御提出ください。(都合により不参加の場合は連絡不要です。)

日 程	開催日	時 間	場 所
1 日目	9 月 1 日 (土)	9 時～12 時 30 分 (8 時 30 分受付)	湯沢市役所本庁舎 市内公共施設(見学)
2 日目	9 月 15 日 (土)		

≪内容≫ 公共施設の現状を知り、施設の種類ごとにご今後どうあるべきか話し合う。
1 日目：【事前研修】現状説明(公共施設の現状、課題等)、施設見学(市内公共施設)
2 日目：【討議】施設の在り方考えるうえでのポイント整理、グループ討議、意見発表
第 1 テーマ：集会所施設はどうあったらいいか
第 2 テーマ：学校施設はどうあったらいいか

※参加の同意をいただいた方から 30 人を選出し、8 月中旬に結果を通知します。
当日の運営方法や討議内容等の詳細は、参加決定時にお知らせします。

【提出期限】 平成 30 年 7 月 25 日(水) 当日消印有効

市民討議会とは？
個人の社会参画意識の高いドイツで行われている住民自治の手法を日本風にアレンジしたもので、市民の積極的な自治参加を促す新たな手法です。
堅固しい論議ではなく、テーマについて市民同士でじっくり話し合いをしていただくものです。専門知識や事前の準備は必要ありません。

市民討議会の特徴

- ①参加者の無作為抽出
住民基本台帳に基づきランダムに抽出した
平成 30 年 6 月 1 日現在で在住する 15 歳以上 1,200 人の方に御案内しています。
- ②参加者の匿名性
報酬(日額 3,000 円)を後日支給します。
- ③専門家等からの情報提供
スムーズかつ良質な話し合いを行っていただくため、専門家や市担当者による情報提供を行います。
- ④参加者による討議
6 人程度の小グループで討議(話し合い)を行い、意見をまとめていただきます。
- ⑤報告書の公表
討議会の結果は報告書として一般公開し、計画づくりの参考とさせていただきます。

【実施方法】

無作為抽出 1,200人 → 案内状 送付 → 参加同意書 返付 → 参加者決定 30人程度 → 討議会開催 → 報告書作成・公表

【参加に当たっての御注意】

- 2 日間(9 月 1 日、15 日の両日)の参加をお願いします。
- 2 日目の討議会は一般公開で行います。
- 記録のため写真撮影・ビデオ撮影を行います。
(報告書の作成や広報紙等情報提供のために使用します。)

【その他】

- 託児サービスについて
参加を同意される方で、託児の御希望がある場合は、同意書に必要事項を御記入ください。(対象：生後 2 か月から小学 6 年生まで)
- 本案内について御不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
湯沢市役所
総務部 企画課 企画政策班
〒012-8501 湯沢市住竹町 1 番 1 号
TEL 0183-73-2113 (直通)
FAX 0183-73-2117

【参加同意書】

**公共施設の未来を考える
『市民討議会』参加同意書**

「公共施設の未来を考える『市民討議会』」への参加について、同意します。

平成 30 年 7 月 日

住 所	湯沢市
氏 名	◎
生 年 月 日	年 月 日
電 話 番 号	※日中連絡のとれる番号
託児サービス	※利用を希望される方は御記入ください
	お子さんのお名前 年齢 性別
	男・女
	男・女

※18 歳未満の方は保護者の同意を得て提出してください。

上記の内容について、同意します。

保 護 者	◎
続 柄	

湯沢市長 鈴木俊夫 様

≪参加を同意される方へ≫ 簡単なアンケートにお答えください。

問 1
過去 1 年間で湯沢市の公共施設を利用した頻度について、一番近いものに○をしてください。
1. よく利用する(月に 1 回以上) 2. たまに利用する(年に数回程度)
3. あまり利用しない(年に 1 回以下) 4. 1 回も利用したことがない

問 2
問 1 で 1～2 に○を付けた方にお聞きます。
利用回数が多い施設をお答えください。(複数回答可)

{ }

問 3
問 1 で 3～4 に○を付けた方にお聞きます。
利用が少ない理由について、当てはまるものに○をしてください。(複数回答可)
1. 利用する必要がない 2. 類似の民間施設や他市町村の施設を利用している
3. 施設の使用料が高い 4. 開館時間が合わない
5. 施設の存在を知らない 6. その他の理由 { }

ありがとうございました。

スケジュール

平成30年9月1日(土) 1日目

時間 9:00~12:30

場所 湯沢市役所本庁舎2階 会議室 25・26

9:00~10:30	開会 あいさつ(総務部長) 説明 ① あなたも考えよう!湯沢市の公共施設(企画課) ② 集会施設の現状と課題について(企画課、生涯学習課) ③ 学校施設の現状と課題について(教育総務課) ④ 公共施設の最適化に向けて ~湯沢市民はどう関わるか~ (公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏)
10:30~12:00	施設見学 集会施設(湯沢生涯学習センター、湯沢勤労青少年ホーム、三関地区センター) 学校施設(三関小学校)
12:00~12:30	質疑応答 事務連絡 閉会

平成30年9月15日(土) 2日目

時間 9:00~12:30

場所 湯沢市役所本庁舎4階 会議室 41

9:00~9:15	開会 あいさつ(湯沢市長) 前回の振り返り
9:15~9:25	ワークショップの開催にあたって(公共施設アドバイザー)
9:25~9:35	情報提供 集会施設の今後のあり方を考える上でのポイント (公共施設アドバイザー)
9:35~10:25	討議1「集会施設はどうあったらいいか」
10:25~10:35	休憩
10:35~10:45	情報提供 学校施設の今後のあり方を考える上でのポイント (公共施設アドバイザー)
10:45~11:35	討議2「学校施設はどうあったらいいか」
11:35~12:05	発表
12:05~12:25	公共施設アドバイザー講評、感想・意見交換
12:25~12:30	あいさつ(総務部長) 閉会

- 開会
- あいさつ(総務部長)
- 公共施設の現状・課題・今後のあり方について

①あなたも考えよう!湯沢市の公共施設(企画課)
公共施設の現状と課題、今後の取組



②集会施設の現状と課題について(企画課、生涯学習課)
各施設の建物情報、利用状況、実施事業、安全性や必要性などの分析



③学校施設の現状と課題について(教育総務課)
校舎の基本情報、教室等、児童生徒数と学級数の推移、クラス編成状況の推移



④ 公共施設の最適化に向けて ～湯沢市民はどう関わるか～（公共施設アドバイザー）
公共施設を取り巻く状況、課題、公共施設の有効活用とまちづくり等



●施設見学

(1) 集会施設

湯沢生涯学習センター



湯沢勤労青少年ホーム



三関地区センター



(2) 学校施設

三関小学校（外観のみ）



●見学を終えて（公共施設アドバイザー）

次回（2日目）に向けて時間的に余裕があったら気になる施設を御覧いただくなど、提案シートに気づいたことをメモして、当日の議論に参加していただきたい。



●提案シートについて説明（企画課）



●質疑応答

1. 次回、アドバイザーがこれまで関わってきた全国の成功例・失敗例を教えてください。
⇒ 全国の事例として、学校については次回紹介したい。集会施設等については、現在は全国どこでも湯沢市と同じ悩みを抱えている状況であり、事例紹介は難しいがポイントとなるところを紹介する。
2. 市の財政をもう少し詳しく教えてください。
⇒ 次回の開催前までに資料を配布する。
3. 施設の写真があれば見たい。
⇒ 写真のほか、施設ごとに詳細を記載している個表についても併せて配布する。

●事務連絡

●閉会

【集会系施設】 提案シート

氏名

課題事項	① 施設の総量・配置	② 施設の有効活用	③ 施設管理の効率性	④ 施設の実施事業 (自主事業・共催事業)	⑤ コメント (自由記載)
意見・提案	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直しが必要 ⇒見直しの方法 <input type="checkbox"/> 総量を増加 <input type="checkbox"/> 総量を減少 <input type="checkbox"/> 配置の見直し (統廃合を含む) <input type="checkbox"/> その他 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直しが必要 ⇒見直しの方法 <input type="checkbox"/> 他用途への転用 (一部転用を含む) <input type="checkbox"/> 利用制限の緩和 <input type="checkbox"/> 利活用の拡大 <input type="checkbox"/> その他 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直しが必要 ⇒見直しの方法 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度・ 民間委託の導入 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 住民・地域の協力 <input type="checkbox"/> その他 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直しが必要 ⇒見直しの方法 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業内容の見直し (縮小など) <input type="checkbox"/> 事業内容の拡大 <input type="checkbox"/> 対象者の見直し <input type="checkbox"/> その他 <div style="border: 1px solid black; height: 60px; margin-top: 5px;"></div>	

■ 個別施設に関する意見・提案等 ※意見・提案等がある施設を選んで記入してください。

施設名	意見・提案等

【学校施設】 提案シート

氏名

課題事項	意見・提案
① 学校施設の地域開放について (空き教室の対策)	
② 地域施設(周辺の公共施設)との複合化について	
③ 建替や大規模改修が必要な施設への対策	
④ 児童・生徒数の推移と市全体からみた学校施設の数と規模・配置の適正化について	
⑤ 休校・廃校施設の有効活用	
⑥ その他の意見、提案 (自由記述)	

- 開会
- あいさつ(市長)



- 前回(1日目)の振り返り(企画課)



- ワークショップの開催にあたって(公共施設アドバイザー)

- ・ワークショップとは

まちづくりなどの特定テーマに関わる様々な立場の人が参加し、テーマに関する課題の分析や解決方法の検討を共同で行い、最終的には課題解決の具体策や課題解決後の関与・フォローの仕方などを提案・検討する会合のこと。

- ・考え方のポイント

- ①市側が行った分析評価は的を得た評価なのか、いや逆にこうではないかと考える
- ②忌憚のない意見交換を行う
- ③行政対市民という構図ではなく市民の皆さん同士で検討し、行政に提案する
- ④それぞれの立場でこの施設をどうしていったらいいかを考える
- ⑤将来を見据えた議論をする

- ・進行のポイント

- ①誰かが言ったことに対して批判したり、否定したり、決めつけない発言を心がける
- ②意見は自由に和やかに行う
- ③他人の意見を尊重して、いろいろなアイデアを出していただく
- ④意見は質より量、シンプルな表現で行う

【討議1】集会施設はどうあったらいいか

一 情報提供「集会施設の今後のあり方を考える上でのポイント」 一 公共施設アドバイザー 川嶋幸夫 氏



(1) 湯沢市における集会系施設の課題

<これまで>

- 対象者別、目的別、市の担当部署ごとに整備
- 類似機能の施設が地域に複数設置の場合もある
- いわゆる「縦割り」行政の弊害がある
- 地域には多くの集会・会議ができるスペースがありながら、用途が限られ、使いたくても使えない、十分使い切れていない施設がある

<これから>

- 地域課題の解決を図る自主的な活動拠点への転換と、その活動を支援する仕組みづくりが必要
- 集会系施設以外にも集会・会議ができるスペースが多くある中で、集会系施設は今までどおり運営していけばいいのかということを考える
- 柔軟に相互利用できれば、場合によっては今ほど施設がなくても市民の皆さんが活動できる場所や地域はたくさんあるということを前提に考える
- 参加者の施設の利用状況、使用する上で支障となること、使用していない場合の理由を議論してからテーマに入ることが重要

(2) 生涯学習センターなどの設置状況

生涯学習センター	4箇所	稼働率	21%
地区センター	13箇所	稼働率	20%
地域コミュニティセンター	4箇所	稼働率	21%
その他集会所等	14箇所	稼働率	4%

(3) 生涯学習センターと地区センター等との関係

- 市民の学びの場、集いの場として、「生涯学習センター」「地区公民館を併設した地区センター、地域コミュニティセンター、集会所等」を設置してきた経緯がある
- 生涯学習センターと地区センター、あるいは地域コミュニティセンターの役割を今後どう考えていったらいいのかが議論のポイント
- 「地域の課題を解決するための活動拠点にしましょう」という役割が加わっていることを念頭におくこと

(4) 生涯学習センター、地区センターのこれからの役割

〈これまで〉

- ・趣味や生きがい活動の場を提供する機能
- ・社会的な課題を学習する機能
- ・情報収集・提供による学習活動の支援機能

〈これから〉

- ・地域の課題解決に向けて地域の皆さんが主体的に考え、行動するための情報提供や調査・研究活動を担う役割
- ・上記の調査研究の結果を受け、課題解決のための実践活動を行う活動拠点の役割
→ こうした役割分担から、各施設をどうするか

(5) 生涯学習センター・地区センターを有効に活用するには

- 各生涯学習センター・地区センターの各部屋の活用状況
→ 一部を除いて、余裕あり。施設での講座や教室は必ずしも十分と言えない状況。
- 施設を使う上で支障・問題はあるか → どのように改善したらいいか
- 施設をさらに有効に活用していくために → どのようなことを行ったらいいか

地域の特性をいかした課題解決をしていくことが、これからの地域経営を考える中心となる。集会系施設とは、単に勉強する場所、活動する場所ではなく、これから地域の課題解決をするための大きな拠点として活かしていく必要がある。

ポイント1 地域の課題解決をするための大きな拠点として考える

(6) 施設の管理運営について

- 生涯学習センターと地区センター全体の管理運営費は、ほとんど税金等で賄われている。
→ 多くは貸館で地域の皆さんが多く活動で使用しているのが実態。しかし、それだといろいろな仕掛けができないために低い稼働率になってしまう。
地域の課題解決にむけて、様々な講座をやって地域の皆さんに集まっただき、活動することでもっと有効に活用できる。その時、どんなことを行っていったらいいのかを考える。

ポイント2 地域の皆さんが活動することでもっと有効に活用することを考える

— 討議 —

市職員が各グループの進行役、書記役となる



市職員が流れを説明



参加者は各自付箋に意見を記入



記入した意見を分野ごとに分ける



それぞれ参加者が付箋の意見を説明し、まとめる



—発表—

発表順 1班→2班→3班→4班

1班



2班



3班

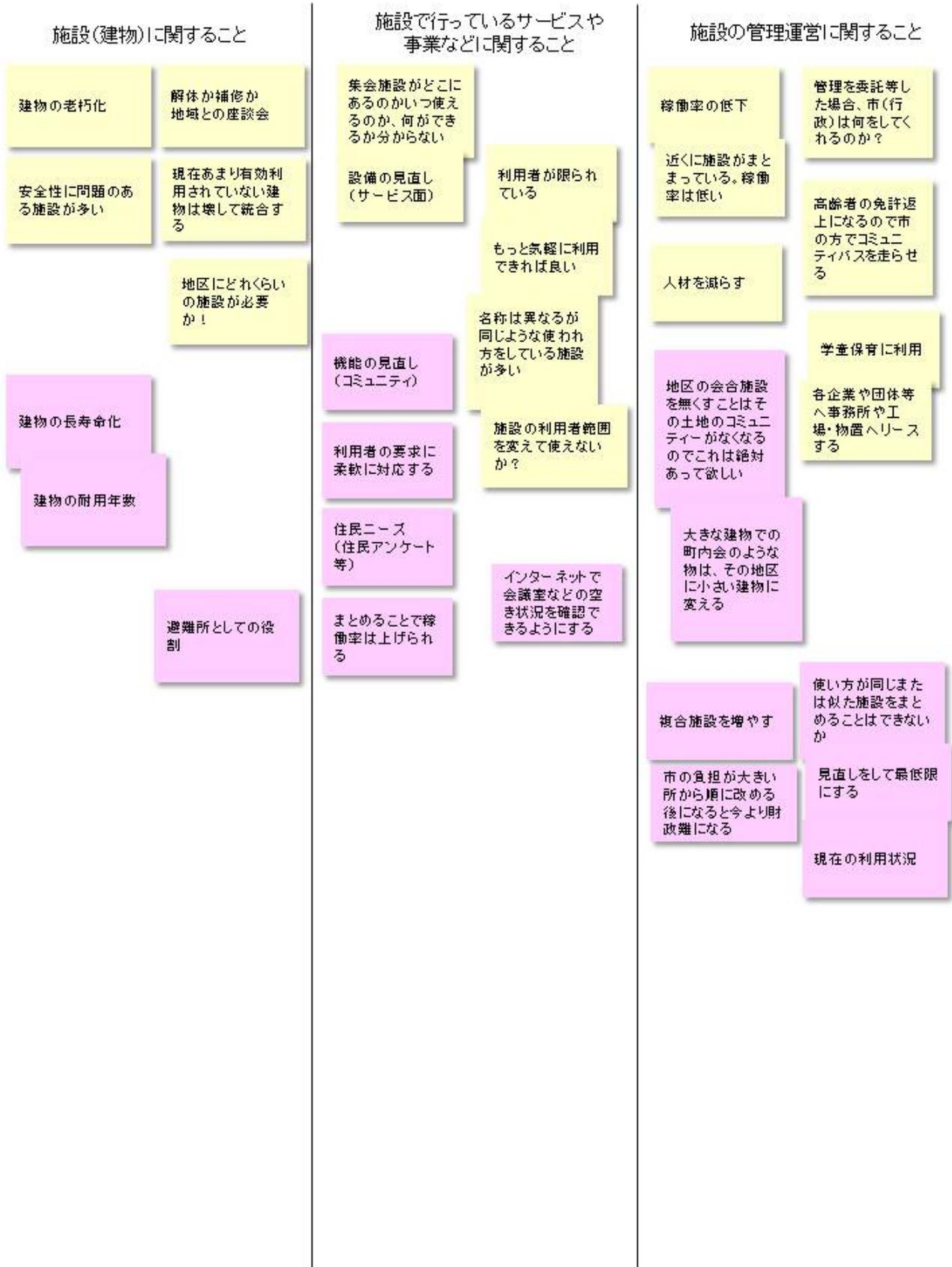


4班



討議1 「集会施設はどうあったらいいか」

1班



討議1 「集会施設はどうあったらいいか」

2班

施設(建物)に関すること

数や部屋数を圧縮しその分お金をかけた施設にリフォームする	再生できる所は必要に応じて再利用
施設までの交通の便等を考えてもらいたい。市街では車で10分足らずで行けるのに、20~30分もかかる地域もある	廃止したり(取り壊しなど)
人口減少が大きな問題(過去30年で約45%減少) 今後も同様に減少すると30年後、市の人口は25000人前後になってしまう	施設は集約化するべき 生涯学習センターは新設される図書館に
集会所施設は数が多すぎる 減らすべき	総体的に減らす 地域バランスを考える
施設は減らすべき	古くなるに伴いトイレが汚い、旧型が多い、部屋が臭い
学校、集会施設は多過ぎるとの説明について 財政上、困難になることは必至と思う。ゆえに、各地域(稲庭・駒形・三梨・山田・須川・秋ノ宮、旧湯沢市は南・中・北の三カ所にする)など、最初にどのくらいの数にするかを決めるのが先決だと思います	各施設古い(設備も)
現状と直面している課題は大方わかりました	施設が多過ぎる
	(可能ならば)施設機能をまとめて新しいものを
	減らすべき
	中心市街地には数が多すぎる

施設で行っているサービスや事業などに関すること

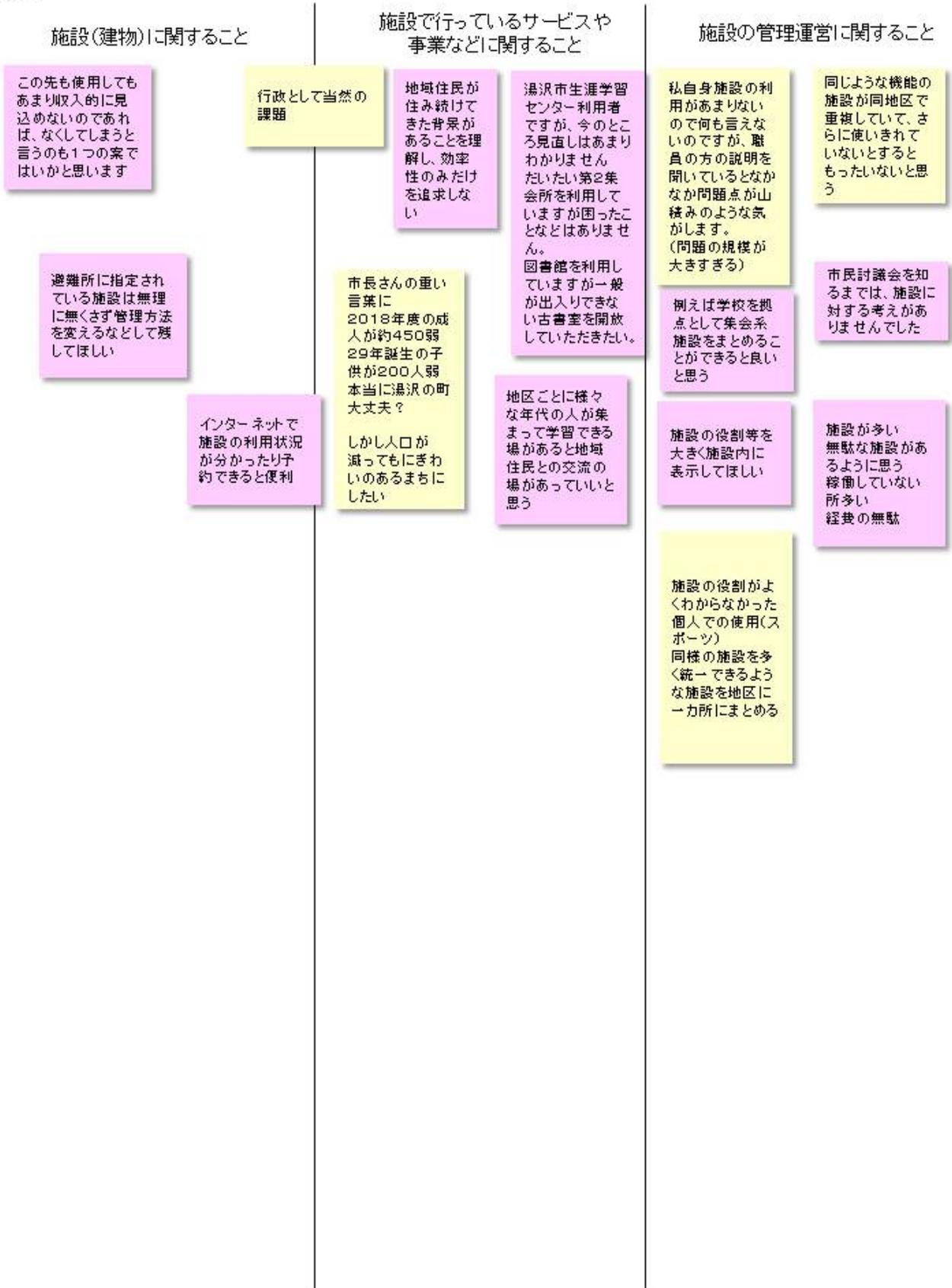
社会人が利用する時間帯は夜遅くなるので21時まででは早い。終了時間、カギ等を利用者任せはどうか?	利用する年齢層が高い
地域バランスを見て配置營を総体的には減らす	様々な年齢層が利用できるような施設であってほしい
	目的が一緒
	施設に行くための交通手段を確保した方がよい

施設の管理運営に関すること

運営費にこだわり過ぎているような気がする	民間への払い下げ
いくら利用料が高くなっても良いので冷房をつけるべき	重複施設が多いので統合(統一)
縦割り行政の使用の仕方ではなく老朽化、耐用性等も考慮して集約化する。地区住民の意見を聞く	民間への委託の検討
職員数は過多なのでは	具体的な見直し 空き教室や空き施設の管理・運営は地区の人間でやるより、民間的要素を入れ込み、高齢者のサロン(食事・コーヒー)や又、農産物のりんご等果物・野菜の地域の魅力の発信に繋がることを率先してやるべき大いに協力したい!
各町内に会館を渡すべきでは	

討議1 「集会施設はどうあったらいいか」

3班



討議1 「集会施設はどうあったらいいか」

4班

施設(建物)に関すること

どう思う

どう見直す

少子高齢化は避けられず
施設の利用の減少

施設の老朽化

老朽化(古くて使う
気になれない)

地震の 때가 こわい

利用しづらい(使う
用途が決まっていると自由
に使えない。)

同じような機能の
施設が多い

冷・暖房が気になる
(かたよっている)

市の集会施設は
多いと思う

施設の数
偏りがある、多い

施設をリニューアルする

施設の建替え

古い建物は解体も
やむをえない

近い所併した
ほうが良い

地域内の施設
配置に見直し

似たような施設を
まとめて複合化し
てもいいと思う

施設の適正化

施設の配置を少
なく

重複している
施設をまとめる

地区ごとに特色
がありますので4
か所に見直しを
する

集会施設が多い
のでできれば一
か所にまとめて機
能ができる施設
にする

施設の複合化

施設で行っているサービスや
事業などに関すること

管理(市)から住
民へ

集会施設の空き
情報は 何で見
るのか?

地域にあった集
会等

配置の住民への
説明

市負担の割合の
減額

事業が多いので
見直した方がよ
い

利用者負担を増
やしてもよいので
よりよいサービス
を受けたい

利用者が負担す
るのはあたり前
だと思って利用
している

予約システム
の見直し(インター
ネット予約など)

施設の管理運営に関すること

集会所の使用料
をもらっていない
所があるのはな
ぜか?

使用している人
はリピーターな
のか?

利用状況

使用しない人は
なぜ使用しない
のか?

どんな人が何を
目的に使用して
いるのか?

施設の維持が難
しいのでは?
(利用者が少な
い)

稼働率の定義が
不明

施設をまとめて
運営

市の施設であ
れば使用料をいた
だく

施設使用料の統
一

多目的な施設

興味がわく催し
物をシリーズ化し
て実施

楽しい事の教室
を実施
(計画する)

利用状況の可視
化

小さな道の駅の
ような役割にして
みては?
(野菜を売ったり
山菜を使った芋
の子汁のふるま
い)

気軽に使えるよ
うに開放したら
いいと思う。(地
域の祭り、子供
たちの夏休みの
レクリエーション
等)

地域にあった活
動と運営

施設利用割合
増やすための対
策(若い人を集
めるか)

【施設（建物）に関すること】

内容	票数
施設をリフォーム、リニューアルする	6
施設は統合する	4
施設を減らす	4
施設の集約化・複合化	4
施設を廃止、取り壊し	3
避難所としての役割があるから残す	2
配置の見直し	2
安全性に問題のある施設が多い	1
解体か補修かを決める地域の座談会が必要	1
施設までの交通の便等を考える	1
生涯学習センターは新設される図書館に	1
施設機能をまとめて新設	1
管理方法を変える	1

【施設で行っているサービスや事業などに関すること】

内容	票数
空き状況の発信、インターネットで会議室などの空き状況を確認できるようにする	4
サービスの見直し（有料でも可）	3
利用者がもっと気軽に利用できるように柔軟に対応	2
地域バランスを見て配置替えを（総合的には減らす）	2
地域住民との交流の場にする	2
集会施設がどこにあるのかいつ使えるか、何ができるか分からない	1
機能の見直し（コミュニティ）	1
住民ニーズ（住民アンケート等）を実施する	1
働いている人の為に利用時間帯はもっと遅くまで延長する	1
様々な年齢層が利用できるような施設にする	1
効率性だけを追求しない	1
図書館を利用しているが出入りできない古書室を開放してほしい	1
管理を市から住民へ	1
配置への住民の説明	1
市負担の割合の減額	1
事業が多いので見直した方がよい	1

（その他の意見）

- もっと幅広い用途で使われてもいい。例：日曜大工・バーベキューなど
- スタッフの皆さんが笑顔で会話が楽しい。
- 土日の使用率向上。一部定期的な商業施設へ貸出、野菜の販売・フリーマーケット

【施設の管理運営に関すること】

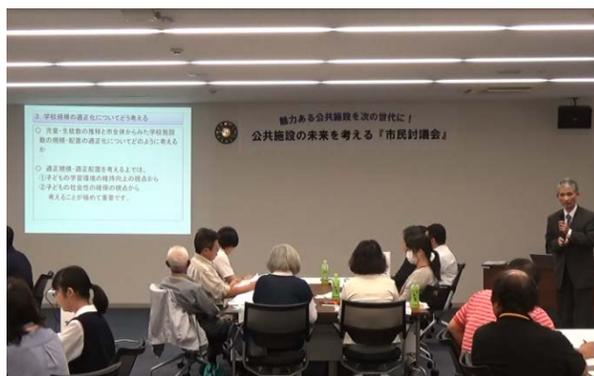
内容	票数
施設の集約・複合化により効率的に運営	5
稼働率の低下を防ぐ	3
施設の統合化により効率的に運営	3
施設の料金の見直しと徴収の義務化	3
人材（職員数）を減らす	2
民間への委託、払い下げ	2
農産物の販売や飲食スペースの設置	2
企画・催し物の充実	2
コミュニティバスを走らせる	1
学童保育に利用	1
各企業や団体等へ事務所や工場・物置へリースする	1
市の負担が大きい所から順に改める	1
運営費にこだわり過ぎているような気がする	1
いくらか利用料が高くなっても良いので冷房をつけるべき	1
地区住民の意見を聞く	1
各町内に会館を渡すべき	1
施設の役割等を大きく施設内に表示してほしい	1
利用状況の可視化	1
地域に見合った活動と運営	1
施設をまとめて運営	1
地域の祭り、子供たちの夏休みのレクリエーション等で使用	1

（その他の意見）

- ・高齢者よりもこれからを担う若い人の意見（高校生）を聞いた方がよい
- ・ボランティア精神で地域住民にお願いして仕事をしてもらったほうがいいと思う

【討議2】学校施設はどうあったらいいか

— 情報提供「学校施設の今後のあり方を考える上でのポイント」 — 公共施設アドバイザー 川嶋幸夫 氏



(1) 学校施設の状況

■小学校 11校

年度	普通学級数	うち単学級	複式学級
平成8年度	161	161	0
平成28年度	83	81	2
平成36年度(見込み)	71	63	8

■中学校 6校

年度	普通学級数	うち単学級	複式学級
平成8年度	65	65	0
平成28年度	41	41	0
平成36年度(見込み)	30	30	0

■閉校数 13校のうち、未利用学校数3(院内小、中山小、須川中)

学校施設は小学校、中学校、給食施設があり、少子化は全国の問題であり避けては通れない状況にある。そういった中で、湯沢市の次の時代を担う子どもたちの人材育成のための教育環境を今後どうしていくべきかが、大きな切り口になってくる。

また、学校は地域コミュニティの拠点としての役割があると言われている。その施設を地域の皆さんがどうやって活用したらいいのかということを考えていかなければならない。

ポイント1 次の時代を担う子どもたちの人材育成のための教育環境として考える

ポイント2 地域コミュニティの拠点として考える

(2) 学校規模による課題等について

■学級数が少ないことによる学校運営上の課題

- ①クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ④運動会、文化祭、遠足、修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑤体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑥児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる など

■学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ①集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくかったり、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい
- ②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ③協働的な学びの実現が困難になる
- ④切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑤多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- ⑥多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい など

■小規模校のメリット

- ①一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めた細かな指導が行いやすい
- ②意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑤教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい
- ⑥異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑦児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる など

■学年単学級の場合

<メリット>

- ①学級規模が小さいときめ細かな指導がしやすくなる
- ②様々な活動のリーダーを務める機会が増える
- ③発言の機会を多く確保できる など

<デメリット>

- ①運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ②体育科の球技や音楽家の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ③班活動やグループ分けに制約が生じる
- ④教科等が得意な子どもの考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑤児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる など

(3) 学校規模の適正化についてどう考える

■児童・生徒数の推移と市全体からみた学校施設数の規模・配置の適正化についてどのように考えるか

■適正規模・適正配置を考える上では次の視点から考えることが重要

①子どもの学習環境の維持向上の視点 ②子どもの社会性の確保の視点

このような状況の中で学校の適正規模はどう考えたらいいのか議論のポイントになる。

ポイント3 子どもにとって学校施設はどのようなか、ということを考える

財政の面ではなく、子どものための視点から学校をどうしたらいいのかについて、皆さんの率直な意見をお聞かせいただきたい。今日お集まりの皆さんの中には、子どもさんやお孫さんが学校に行っているという当事者の方もいるかもしれないが、公平な立場で一般論として子どもたちの通う学校はどうあったらよいかをぜひ考えてほしい。

(4) 学校施設の有効活用

■学校は、コミュニティの拠点と言われているが、市民の皆さんが利用しているのは、体育館とグラウンド程度

■学校施設を地域の身近な施設として、校舎・教室を地域が利用できるようにするにはどうしたらよいか

■使用できるようになった場合の管理運営はどうしたらよいか

施設の有効活用について、空き教室を地域で利用するにはどうしたらいいのかということ、実際に地域の方々が担っていくときに管理運営はどうなっていくのかも併せて考えていただきたい。

学校の規模の地域交流の留意点としては、利用者の安全性、子どもたちの安全性、そういうことに十分配慮した上でやるのが前提になる。セキュリティの確保を十分にした上で、学校の施設を開放していくことを前提に考えていただきたい。これは子どもたちがいるからできない、ということではなく地域の方が子どもの運営に関わることによって、地域の方が利用することによって逆に子どもたちのセキュリティ・安全対策になっていくので、そういう視点から学校施設を地域でどう使っていったらいいのかを考えてほしい。

ポイント4 地域の方が子どもの運営に関わることによって、どう活用するかを考える



— 討議 —

参加者は各自付箋に意見を記入



記入した意見を分野に分ける



それぞれ参加者が付箋の意見を説明し、まとめる



—発表—

発表順 4班→3班→2班→1班

4班



3班



2班



1班



討議2 「学校施設はどうあったらいいか」

1班

施設(建物)に関すること

地域交流気拠点としての活用

空き教室を利用した複合化

建替・改修の必要性

有効活用と言っても維持管理をどうするか

1階・2階の空き教室を増やす

将来は旧湯沢市で中学校2校に統合

生徒数によるが統合を考えた方が良い

児童数減少による複式学校の増加(小学校)

中学校の生徒数の減少

空き教室を複合施設として利用する

空き教室を児童館として利用する

統合した学校には設備を整える(和式トイレ→洋式に)

住民との関わり方(災害時避難場所としての活用)

使い分けをきちんとする

一部の使用(グラウンド・体育館)だけでなく、地区センター的役割を持たせる

稲川・皆瀬で中学校1校にする

統合が可能なら統合を考える(山田小)

旧稲川町小学校の統合(複式解消のため)を考える

50年の経過している学校は建替又は解体

改修に必要なコストの見直し・縮小

施設で行っているサービス・事業などに関すること

民間施設との兼ね合いがないか

非常時の避難所

小規模校同士の交流を増やせば良い

学童保育と地域の介護予防施設として利用

利用制限の緩和

子育て支援・福祉施設としての新たなニーズの受け皿としての活用

集団行動を複数の学校でまとまって行う

空き教室を高齢者の憩いの場にする

介護施設と同居する

施設の管理運営に関すること

規模と配置の適正化について事前の説明会

休校の有効活用

休校・廃校の活用

廃校を民間にリースする又は売却する

廃校を集会所やコミュニティセンターにする

各クラスの教室の配置を変える

学区の住民に統・廃合の理由の説明を充分に行う

民間への貸与・ホームページの開設(空き教室・利用状況等)

企業等への貸し出しをする

地域の行事への解放

真にプールを開放する

地域の中心となる場所であることを生かす

討議2 「学校施設はどうあったらいいか」

2班

施設(建物)に関すること

- 部活や学校行事、多人数の中での友人関係等団体の中で学ぶことが多い為合併はやむを得ない
- 複式学校をなくす
- 効果的に廃校となる所が発生
- できるだけ大きい集団の中で生活すべきだと思う
- 学校の施設→地域の人が運営に関わっていく→学校が使う時間と又、地域の人も使えるように考えれば無理、無駄のない新築建設を望む
- 学校と他施設を複合して新設できると理想的。ただ可能か？
- 現在使用されています小・中学校は全て耐震工事が済んでいるので複合的利用を考えるべき

施設で行っているサービス・事業などに関すること

- 小中一貫は理想的だと思う
- 小学校の放課後教室を学童保育に使う
- 音楽室を地域の社会人プラスバンドやアマチュアバンドに使わせる
- 生徒数の推移を見据えて地域の状況により通学区変更でバランスを取ることも良いと思う
- スクールバスの利用していない時間帯を地域住民の交通手段として利用できませんか？
- 児童数からみて三関小と須川小三梨小の統合が考えられますが地域のみで有効利用できるように
- 空き教室は集会所として利用
- サークル活動として利用
- より効率的に又、野球・コーラスグループ等大会に出る際に、まとまった人数が確保できることが大事と思われます。児童・生徒も地域差のない授業が受けられ、平等な勉学ができると思います
- 放課後の学童が、両親が、仕事の為その時間を今は、幼稚園等で、引き受けているようですが、その後(授業後)学校で先生以外の人を派遣し、運動させたり、遊ばせたりする事も考えねばならない課題と思われます。全部幼稚園で引き受けるのは、難しいのではないのでしょうか

施設の管理運営に関すること

- 休校・廃校施設レジャー施設として民間委託しては？
- 休校・廃校施設民間企業に貸出して会社として又は貸事務所として利用してもらっては？
- 休校・廃校施設地域のコミュニティー集会所(公民館的な活用)にすれば公民館を減少できる
- 学校を開放するためのシステムが難しいと感じる
- 学校施設についてこれからの児童・生徒の勉学向上の為には、ある程度の人数をまとめ、皆瀬、福庭、川連、駒形、三梨を一か所にしてスクールバスを使用する。又、横堀、院内、秋ノ宮は西小、南中に、山田も同じ、岩崎地区は北小、北中に統合させる新築する際は、コミュニティセンターとしても使用する
- 廃校の利用は地域・企業等で積極的に活用◎
- 空き校舎は民間企業に安く提供する
- すでに廃校の学校は企業への払下げ等を含めて他の利用に
- 小学校の方が利用しやすいと思う(地域の人が)
- 今迄学校は学校の児童、生徒のものということで学校の先生が、父母でさえ普段よせつけない時代(25年前位)がありました。川崎先生のご説明通り私も、学校のスペースも有り、地域の人の学校活用というのは、少子化で大切になってくると思われます
- 学校に遠い地域の人たちは市でつくる(これからつくる)乗り合いバスみたいなもので、積極的に使用すべきと考えます。そうすれば、細い地域毎のセンターは不必要になり、管理の大変さ(やる人・かかる費用)が、はぶかれると考えます

討議2 「学校施設はどうあったらいいか」

3班

施設(建物)に関すること

個々の能力に合った教育のため9年生の一貫校に

学校と福祉施設の併設

平等な教育という面で人数の違いは大きな影響を与えていると思う

少数数の学校があったら集会施設と合算することによって地域の人のコミュニケーションをとれば社会性も養われるのでは

施設で行っているサービス・事業などに関すること

私や孫が卒業した学校がすでに廃校になっています。特に北中学校はまだ使えるし広いので年3回のフリーマーケットなどを考えたら良いのでは

廃校となった私の地域の子供たちは40(冬)~30分かけて通っています。昔もずいぶん歩いたので健康によいかもと見ている

市のゴミ問題にも通じますが終活に力を入れています。各家庭にももらえないもの、外の家々ではほしくないものが違うので、市民全員参加のフリーマーケットができればと思っています

教室が使用されていない時間帯は教室の貸与がされてもいい

父母の動く場所がない(減少のもと)

学校は様々な教室があるので学校を中心に地域の人がかんどん使った方が効率的

生徒と一般と合同で学校の家庭科室を使い製品の開発して見てはどうか(例、金農高のパンケーキ)

初めに学校施設で活動できる団体に活動してみてもらって、できそうであれば使わなくなった施設を廃止するといいいのでは?(段階的に)

市民協議会が30年前にあったら良いと思った

魅力的な就職先が無い為に若者が少なくなり子供の減少に歯止めがきかない行政はどのように考えているのか?

施設の管理運営に関すること

現在の学校の敷もかなり縮小されていると思う

無理に空き教室をつくらず平屋建にリフォーム

廃校になってしまった学校を使うのはよいが、無駄なスペースが多い

討議2 「学校施設はどうかあったらいいか」

4班

施設(建物)に関すること

どう思っているか	どう見直すか
大規模改修がある施設は休校する	耐震工事を終了しているが建替が必要な学校もある
将来をみこしてたてたほうがよい(現場の声をきいて)	改修工事の見える化(工事見続の開示)
生徒数の減少で配置の見直し	規模を縮小するか、他の学校との合併するのも仕方ないとも思う
空き教室の現在の管理はどのようにしているのか?	適正化の定義を明確化し地域の声を反映
使われていない教室が多いように感じる。(本当に空き教室はないのか)	
使われなくなった校舎を活用するにも借金してまで使うべきなのか?	
解体等の決断は誰が?	

施設で行っているサービス・事業などに関すること

どう思っているか	どう見直すか
地域に合った教育	親子のパソコン教室 育児及び子育て支援教室(月1回程度) 月に1回のイベント施設にできるのではと思う。(自分達で作った物を売ったり)
部活動できる学校(複数クラブ)	体育館ハートレーニングルームの設置(有料化) 料理教室を開いたり、趣味の部屋(手芸教室)にするのもいいと思う
生徒がのびのびした学校	地域と供に行事を行い交流を深める
子供達が活発な活動勉強学校	

施設の管理運営に関すること

どう思っているか	どう見直すか
地域の民間や企業をまきこむ	集約化による人移動時の専用バス 複式学校になっている学校は、大きな学校に統合したほうがよい
宿泊できる施設(民間、企業、住民にも参加)	使用していない学校は貸出し収入を得る
学校運営はクラス30人2クラス全体で12クラス(360名)	地域住民が使いやすくする 住民がたくさん集まる場所 デイサービスやグループホームにするにはどうだろうか。(体育館で体を動かしたりして健康作り)
合併できる所は早めに合併する	子供たちが使わない時間は開放し、気軽に利用できるようにしてみる
皆瀬小中学校は一緒にする(借地の解消)	地域の人も事業に参加 住民を先生として(農業、林業等) 地域の人とレクリエーションをする機会を作るのもいいのではと思う
	地域の活動拠点にする 施設の活用 学校で農業、山村、自然体験ができる 学校に保育園と老人ホームの融合化 地域一体となった運営 福祉施設など

【施設（建物）に関すること】

内容	票数
空き教室を利用した複合化	7
統廃合	6
建替・改修	3
地域交流拠点としての活用	2
使い分け、配置の見直し	2
維持管理の問題	1
設備を整える（和式トイレ→洋式に）	1
一部の使用（グラウンド・体育館）だけでなく、地区センター的役割を持たせる。	1
改修に必要なコストの見直し・縮小	1
複式学級のある学校をなくす（結果的に廃校となる所が発生）	1
個々の能力に合った教育のため9年生の一貫校に	1
学校と福祉施設の併設	1
改修工事の見える化（工事見積の開示）	1
適正化の定義を明確化し地域の声を反映	1

【施設で行っているサービスや事業などに関すること】

内容	票数
フリーマーケット会場やイベント会場として利用	3
学童保育として使用	3
地域の介護予防施設として利用	2
子育て支援・福祉施設	2
空き教室を集会所として利用	2
非常時の避難所	1
民間施設との競合を考える	1
小規模校同士の交流を増やす	1
利用制限の緩和	1
集団行動を複数の学校でまとまって行う	1
空き教室を高齢者の憩いの場にする	1
小中一貫にする	1
（授業後）先生以外の人を派遣し、運動させたり、遊ばせたりする事も考える	1
音楽室を地域の社会人ブラスバンドやアマチュアバンドに使わせる	1
地域の状況により通学区変更でバランスを取る	1
スクールバスの利用していない時間帯を地域住民の交通手段として利用	1
学校施設で活動できる団体に活動してもらって、できそうであれば使わなくなった施設を廃止する（段階的に）	1
教室が使用されていない時間帯は教室を貸与する	1
生徒と一般と合同で学校の家庭科室を使い製品の開発	1

親子のパソコン教室	1
体育館へトレーニングルームの設置（有料化）	1
料理教室や、趣味の部屋（手芸教室）	1

【施設の管理運営に関すること】

内容	票数
廃校を民間にリースする又は売却する	1 1
地域の活動拠点・地域の中心となる場所であることを生かす	5
廃校を集会所やコミュニティセンターにする	3
合併・統廃合の促進	3
学校に遠い地域の人たちは乗り合いバスやスクールバスを利用する （新たな仕組みを作る）	3
休校・廃校の有効活用	2
地域行事への解放	2
統廃合や規模と配置の適正化について事前の説明会を行う	2
農業、山村、自然体験の活用。住民を先生として（農業、林業等）交流を行う	2
地域の人と交流する機会を作る	2
学校に保育園と老人ホームの融合化	1
ホームページの開設（空き教室・利用状況等）	1
宿泊できる施設（民間、企業、住民も参加）にする	1
学校運営はクラス30人2クラス 全体で12クラス（360名）	1
デイサービスやグループホームにする	1
無理に空き教室をつくらず平屋建てにリフォーム	1
夏にプールを開放する	1
各クラスの教室の配置を変える	1

（その他の意見）

- ・ その場限りの討論や強い人たちに飲み込まれないように政策を出していくべき
- ・ ここが湯沢ですというアピールできる建物がないことが残念

(公共施設アドバイザー)

各班、同じような課題があったのではないかと思います。特に集会系施設について、施設では老朽化が激しい中で集約化・複合化という面では一定の理解をいただいたのではないかと。

これから、施設の方向性を具体化する際は地域の皆さんに説明して進めていくことになる。生涯学習センターと地区センター、コミュニティセンターや集会所の役割分担を明確にしていかなければ曖昧になるのでしっかりと整理することが必要だと思っている。それぞれ23箇所の自治組織の拠点をどこにするのか、という話になった時に、生涯学習センターなのか、地区センターなのか、コミュニティセンターや集会所なのかということ、その拠点の中で何をやっていくのか、それを誰がやるのかを、これから整理することが必要である。一箇所に集めるということだけではなく、集めた結果、何をやるのかということ整理する必要がある。

地域に譲渡する、民間に委託する、とした場合に行政の役割は何なのかという疑問が意見としてあったが、地域福祉・地域防災・地域振興、地域の人材育成に対し行政はどのように関わっていくのかということ行政としてビジョンを示して、集会系施設の再構築を目指すことが重要であり、これからの出発点となる。

学校施設については統廃合もやむを得ないという意見がたくさん出たが、単に統合すればいいという問題ではなく、子どもたちのことを考えて、地域の拠点として考えて、地域の声を聞くことが大切だと思う。

学校への地域の関わり、市民の関わりという意見について、現在文部科学省ではコミュニティスクールという事業が進められている。学校の授業に地域の皆さんが参加してもらい、あるいはクラブ活動に参加してもらい、あるいは学校の安心・安全に関わってもらいということが多くの自治体で課題となっているので、湯沢市においても地域の皆さんが学校運営にどう関わっていくのかが大きな課題になっていると思う。

集会系施設も学校施設も共通の課題が1つある。それは行政からの情報発信が十分ではないということ。いつ空いているかわからない、どこを見ればいいかわからない、インターネットを見れば分かる仕組みがあるが、湯沢市では構築されていない。現在は大きな投資がなくてもシステムを構築することができるので、空き情報をしっかり情報発信することで活用していただくことも重要な課題である。

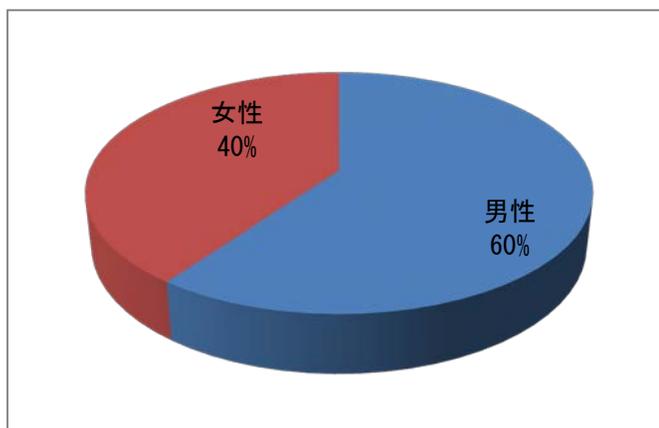
- あいさつ
- 閉会

参加者アンケート集計結果（市民討議会参加後）

市民討議会（2日目）終了後に、アンケートを実施しました。

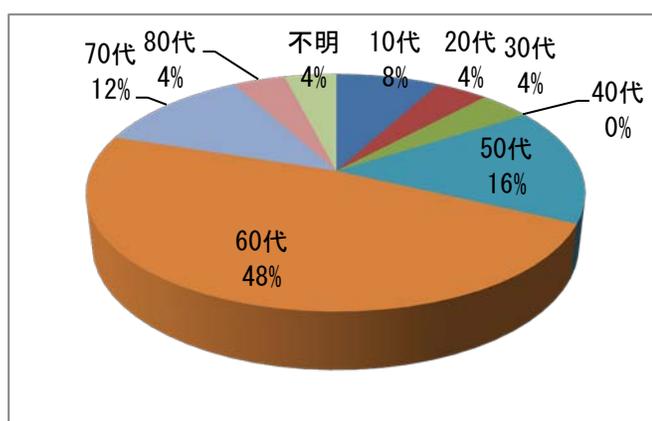
①あなたの性別をお答えください。

男性	15名
女性	10名



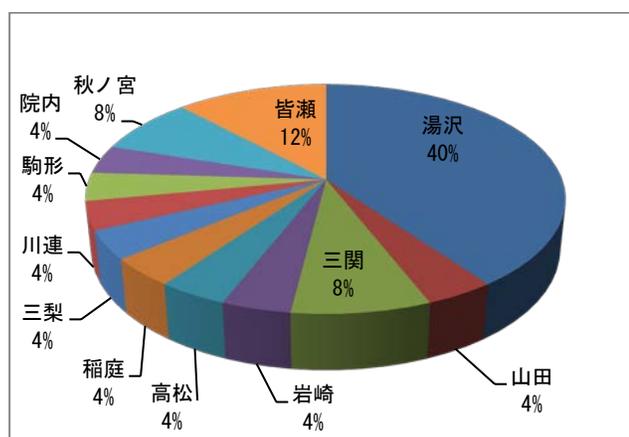
②あなたの年齢をお答えください。

10代	2名
20代	1名
30代	1名
40代	0名
50代	4名
60代	12名
70代	3名
80代	1名
不明	1名



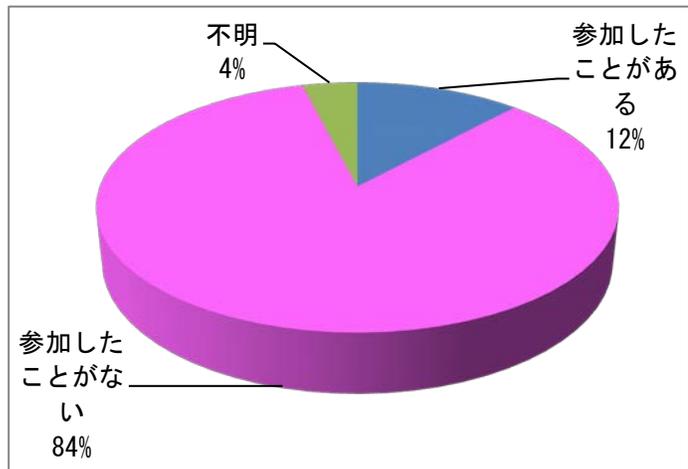
③お住まいの地区をお答えください。

湯沢	10名	稲庭	1名
山田	1名	三梨	1名
三関	2名	川連	1名
弁天	0名	駒形	1名
岩崎	1名	院内	1名
幡野	0名	横堀	0名
須川	0名	秋ノ宮	2名
高松	1名	小野	0名
		皆瀬	3名



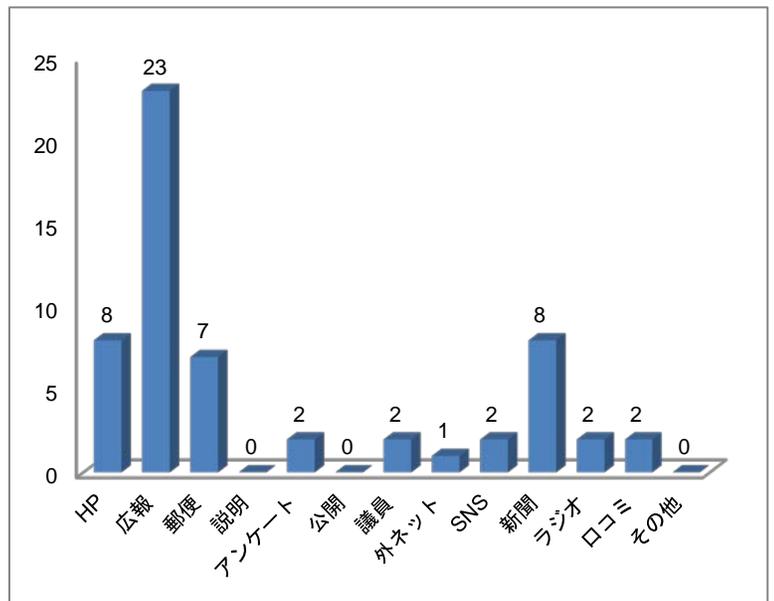
④これまでに、市が策定する計画に対して意見を提出したり（パブリックコメント）、地域毎の意見交換会や、まちづくりに関するワークショップに参加されたことはありますか。

参加したことがある	3名
参加したことがない	21名
不明	1名



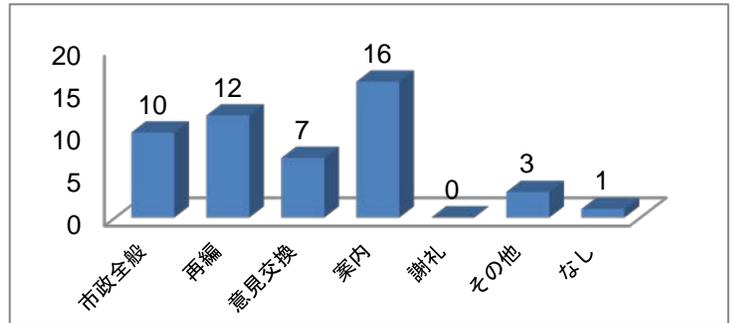
⑤公共施設の再編を含めて、市政に関する情報を得る方法はどれが多いですか。（複数回答可）

市のホームページ	8名
市の広報紙	23名
市からの郵便物	7名
市職員からの説明会	0名
市のアンケート調査	2名
市への直接の問い合わせ・ 情報公開請求	0名
市議会議員からの説明	2名
市公式サイト以外のネット 情報	1名
SNS	2名
新聞	8名
ラジオ	2名
口コミ	2名
その他	0名



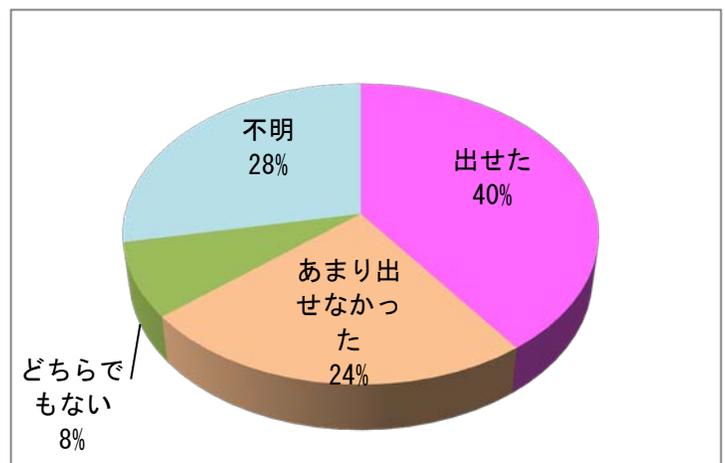
⑥ 討議会に参加された動機は何ですか。(複数回答可)

市政全般に関心があったから	10名
公共施設の再編に関心があったから	12名
市民同士で意見交換をしてみたいと思ったから	7名
討議会の案内が届いたから	16名
出席に伴う謝礼金があったから	0名
その他	3名
特に利用はない	1名



⑦ 討議会では、アイデアや意見を十分に出すことができましたか。

出せた	10名
あまり出せなかった	6名
どちらでもない	2名
不明	7名



(⑦の理由)

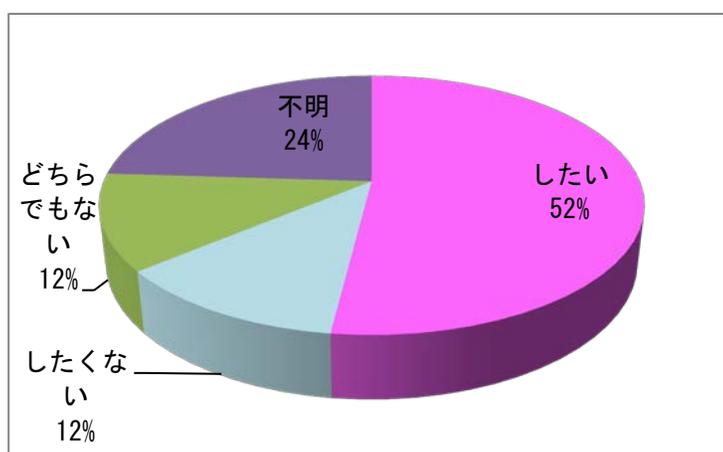
出せた
施設を利用することがよくあるから。湯沢/男性/16歳
書くことによって自分の意見がでた。駒形/男性/60歳
考え方がある程度できたと思う。湯沢/男性/64歳
自分の考えが出せたと思う。湯沢/男性/69歳
湯沢市の施設の現状について考えてきたので。秋ノ宮/男性/57歳
市に対して考えているアイデアを出して、周りと意見を出し合い共感ができたと思う。三梨/女性/23歳
事前にまとめた内容を出せた。岩崎/男性/60歳
説明する、発表する雰囲気できていたと思う。湯沢/女性/28歳
討議前に提案シートがあり、それに意見を書いたのでその延長で書かせていただいた。湯沢/女性/67歳
まあまあ出せたかと思う。資料をたくさん出してもらったので。湯沢/女性/72歳

あまり出せなかった
ワークショップのやり方がよくわからず、十分な話し合いはできていなかったと思う。湯沢／女性／65歳
ワークショップの進め方に問題があり見ているだけ。班のまとめはやらないのか？何を話し合いにしたいかわかりにくい。皆瀬／男性／30歳
十分にアイデアを出すことができなかった。山田／男性／73歳
少しは出せたかと思えます。稲庭／女性／69歳
色々あるがまとまらない。川連／男性／59歳
時間が短く感じた。もう少し考える時間がほしかった。秋ノ宮／男性／53歳

どちらでもない
グループ内では自分が出せる限りの案を出したが、全体の場では緊張してまとめられなかった。三関／女性／15歳
話を聞いて納得することの方が多かった。湯沢／女性／69歳

⑧今後もこのような機会（討議会、意見交換会など）があった場合、参加してみたいと思いますか。

参加したい	13名
参加したくない	3名
どちらでもない	3名
不明	6名



（⑧の理由）

参加したい
とても良い経験になるから。湯沢／男性／16歳
自分と他人の意見の違いがわかった。駒形／男性／69歳
自分の住む街の暮らしをよくしていくために、少しでも関わりたい。湯沢／男性／64歳
各地区の皆さんとの意見等を交換してみたい。院内／男性／62歳
討議会、意見交換会は、勉強になった。山田／男性／73歳
市は市民全体でつくっていくものであって、実際に住んでいるいろいろな立場から意見があるべきだと思う。三関／女性／15歳

あまりしゃべるのは得意ではないが、いろいろな意見を聞いて勉強してみたいと思う。稲庭／女性／69歳
いろいろな人たちの意見が聞けてよかった。湯沢／男性／69歳
今の子どもたちが安心して生活できる湯沢市にしたいので。秋ノ宮／男性／57歳
これからの将来を考える上では重要な機会だと思うから。三梨／女性／23歳
今後も見たい為。岩崎／男性／60歳
市のいろいろな考え、運営、決定の仕方が不透明でこういう機会があると、具体的になる。市民意見が反映され、よりよい市になるよう応援したいと思う。湯沢／女性／67歳
慣れも必要。川連／男性／59歳

参加したくない
あまり参加したくない。湯沢／女性／65歳
関心があっても知識があまりにもなさすぎることに気が付いた。湯沢／女性／69歳
問題が多すぎて難しいので、そうしていいか分別に困ってしまうから。精査が難しい。秋ノ宮／男性／53歳

どちらでもない
会の進め方により決めたい。皆瀬／男性／30才
市民の意見はたくさんあるので、その代表のような気持ちで、少し大変さがありました。湯沢／女性／28歳
討議会の内容によって。湯沢／女性／72歳

⑨会議の日数や時間の長さなど、参加のしやすさについて、お気づきの点がありましたらお聞かせください。

日数、時間は適当だと思うが、考えを話し合う時間がもう少しあればよかったではないか。湯沢／女性／65歳
日数はもう少し多くてもよいと思う。皆瀬／男性／30歳
8：30～12：00で終わってほしい。駒形／男性／69歳
この日程で良いと思う。湯沢／男性／64歳
あと1週間程度日にちがあいていとよかった。三関／女性／15歳
このような会議にはあまり出席したことがないので、すごく勉強になった。日程は2日ぐらいでいいと思う。いろいろな体験をさせてもらった。稲庭／女性／69歳
1回目の会議から2週間勉強する時間があり（見学等）よかった。湯沢／男性／69歳
日数は少ない。時間は長い。秋ノ宮／男性／57歳
2日間なのは問題ないが、週が2週にわたっていたので1週間後など短期間にしてもらえるとよかったと思う。三梨／女性／23歳
今日はちょうど良かった。湯沢／女性／28歳
1日目はどうしても都合が悪く欠席してしまったが、職員の方は大変だと思うが土曜日の

開催は、都合がつきやすくていいと感じた。市の状況が理解でき、他市に負けない市づくりに応援したいと感じた。湯沢／女性／67歳
大方適切であったと思う。湯沢／女性／72歳
良いと思う。川連／男性／59歳
参加しやすかった。ただ視察箇所など、もっと多くの施設の使われ方も見て回りたいかった。秋ノ宮／男性／53歳

⑩その他、討議会へ参加して感じたご意見をお聞かせください。

グループでの活発な話し合いができなかったけれど、様々な考えを聞くことができ参考になった。市政について知り、考える機会を得た。湯沢／女性／65歳
中身の無い討議。皆瀬／男性／30歳
他人の意見が大変勉強になった。駒形／男性／69歳
議題についてもう少し市（行政の意見、このようにしたいとか）の具体的な指標があればよいと思う。湯沢／男性／64歳
市民討議も大切だが、市職員全員が課題と解決に向けて一体化する必要がある。皆瀬／男性／75歳
大変勉強になった。山田／男性／73歳
様々な年代の意見が聞けて良い機会となった。ありがとうございました。三関／女性／15歳
これからの日々に参考になると思った。湯沢／女性／69歳
あまりにも敷居が高くて、私の出席する会ではないような気がした。稲庭／女性／69歳
もっともっと色々な人たちに意見を聞いてほしい。湯沢／男性／69歳
多くの人々の意見が聞けて大変良かった。秋ノ宮／男性／57歳
学校施設、集会施設について考えるのは大事だと思うが将来を考えるうえでやっぱり、若い世代のことも考えるべきではないかと思った。（他県からの人たちの移住も考えるべきで）そのうえで、安心して子育てできる環境づくりも大切ではないかと思った。三梨／女性／23歳
新たな考え方がいろいろでてきた。市民討議会へ参加ができて大変よかった。岩崎／男性／60歳
よい機会を与えていただいた。参加できてよかった。ありがとうございました。湯沢／女性／28歳
皆さままで活発な意見を出し、本当にいい市づくりの為に討議と感じた。市議会議員の方からも意外と状況説明はなく、もう少し、自由に、発信してもいいのではないかと。私たち市民はそれを参考にしてよい市、町づくりに応援したいと思う。湯沢／女性／67歳
不特定の方と色々意見を交換でき大変参考になり、良い機会になった。ありがとうございました。市の方向性が全く見えなかったので残念だった。湯沢／女性／72歳
みんな真剣に地元の事を考えているとわかり心強い。川連／男性／59歳
精査する時間をもっとほしかった。秋ノ宮／男性／53歳

平成30年10月発行



公共施設の未来を考える
「市民討議会」
開催報告書

〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1-1
湯沢市 総務部 企画課 企画政策班